シリーズ 子どもたちの発達

『気付いていますか ？！子どもの育ちのSOS』

近年、「子どもの姿が変わった」ということを危惧する話しやニュースが多くなっています。

保育園や幼稚園で，一定の集団生活をしているにもかかわらず，小学校の低学年からすでに「人の話が聞けない」「ルールが守れない」「落ち着きがなく集中力がない」「乱暴したり,自分をコントロールすることが出来ない」など、人間としての基本的な能力が身についてない子が多いと言われているのです。

これらの能力は ,大人が強制的に教え込んでもなかなか身につくことではなく、乳幼児期の生活や遊びを通して子ども自身が自分の能力として獲得していくものです。

ですから、子どもの世界から遊びが失われていくと、ますます問題を抱えた 子は増加し、「不適応」や「問題行動」として“心の荒れ”までに表出していく可能性も大きくなるでしょう。

つまり乳児期から，子どもが人間としてより良い生活をしているか、そして 良く遊んでいるかどうかということが、子どもの育ち・発達に大きく関わっていきます。

更に，子ども自身の「生活」が安定し，規則的であることがとても重要です。“食べること・寝ること・排泄すること”この3つが正常に機能することが人間として生きる土台となります。この土台が安定しなければ，ダイナミックに身 体を使って遊ぶことも，集中して何かに没頭して遊ぶことも、ましてや穏やかに，けれども積極的に能動性をもって人と関わることも充分に出来ないのです。

そうなると、常に「生理的不快」が優先され，グズグズとぐずったり、イライラとかんしゃくを起こすことが多いという大人への依存を土台とした生活になってしまいます。

つまり，子どもの安定した生活と遊びが充分に保証されていない環境では， 子どもは充分に発達することが出来ないと言えます。

乳児期は特に，一日がどれだけ生理的に満足して充実し，どれだけ豊かな遊びを経験した

か，ということが、“どれだけ豊かに発達したか”ということになるのです。

『遊びで発達する子ども』

子どもが社会の中で生きていく力を身につけるために最も大切な活動は遊びです。乳幼児期の子どもにとって必要なのは『よく遊ぶ』ことなのです。

子どもが小さければ小さいほど、大人が強制的に何かをさせても、子ども自身が要求していないことは一切身につけることは出来ません。

友達と仲良くすることや，おもちゃを独り占めしないことも，遊んだ後は片付 けることも、お行儀良く食べることや、人の話を良く聞くことも、学習につながるものの形や色・大きい小さい・重い軽い・やわらかい硬いなどの感覚も， 手や身体を充分に使うことが出来るようになるのも，すべては遊びを通して学 び，身に着けていきます。

そうした『感覚』として身についた認知の機構を赤ちゃん時代から築いていく ことで将来，学校や社会で必要な知識や技能を獲得することを容易にする認知の枠組みが作られているのです。

Kid’s Encourageではこれらの子どもの育ちについて、臨床教育心理学をベースとして、乳児期に必要な発達課題の獲得を環境から，人とのかかわりの中からアプローチしていくことで乳児の発達と能力を促進させます。

柏市駅前認証保育園 Kid’s Encourage
園長　日下部樹江

kids-encourage.com に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法により保護されています。
Copyright © 2010 Kid’s Encourage All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.